
所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 ヌルハイザル・アザム・アリフ

URL :

研究キーワード : 多国籍企業, ダイバーシティ・マネジメント,
ハラール・ビジネス

■研究テーマ

① ハラール産業の国際化

イスラム市場の発展によりあらゆる分野で需要が増えつつある。そのハラール市場に対応する商品及びサービスを改めて差別化を図らないといけない。その一方、日本国内の観光産業もイスラム観光客の増加につれてハラール飲食店、ハラールホテル、ハラールサービスのニーズも上々に高くなります。しかし、日本人及び日本企業のハラールに関する知識やノウハウなどがまだまだ未熟であると思います。本研究では世界のハラール基準や見解、海外の市場の現状を含めて日本国内のハラールに関わる様々な可能性のある産業；食品加工・製造業、飲食店産業、観光業、ホテルなどのハラール対応の現状と課題を把握する目的に行いたいと思います。

② 在日外国人従業員におけるダイバーシティの課題

多様性が求められる現在の日本の社会と企業では、在日外国人従業員への対応はいかなる対策・プログラムがあるか及び彼らが直面している社内外の課題がどのようなことがあるかを研究する必要があるかと思えます。本来注目されているダイバーシティ研究内容は主に女性に対する課題が中心となります。本研究は上記のハラール産業という異文化的な観点から在日外国人従業員に対する多様性を含めて徹底的に研究する必要があると考えます。今回はハラールと外国人従業員との関係性があるかと予測する上で一石二鳥という方法で進行したいと思えます。

■研究テーマの応用例

本研究を実践する目的としては企業、行政、学生・人材の育成するに当たって重要な役割を果たすことができるかと思えます。2020年の東京オリンピックに向けて多様なアスリートだけではなくスポーツを観戦する及び外国人観光客も大勢来日するに違いありません。日本社会の異文化の対応は進んでいますでしょうか。それ加えて労働人口不足の状況に置かれている日本は以前よりさらに多くの外国人を採用し日本の職場に登用されることに迫られます。単一人種国家である日本は今後国内の社会や職場において外国出身の従業員のニーズ及び異文化セシティブティをどう対応されますか。本研究はそれらの課題を追求しさらに如何にその多様性が日本社会及び企業に恩恵及び利益をもたらされるのかを検証します。

■主な著書、発表論文

Nurhaizal Azam Arif (2012)、『International Diversity Management Initiative: Case Study of Japanese Multinational Corporation Subsidiaries in Malaysia』、広島市立大学国際学研究科（博士論文）

Nurhaizal Azam Arif, (2011)、『Strategic Goals of Workplace Diversity Management: A Conceptual Framework』、国際ビジネス研究第3巻1号